あいさつ

福井県小学校長会
会長　小　島　敏　弘

皆さま、こんにちは。夏休みも残りわずかとなりましたが、校長先生ご自身および各学校ではこの１カ月いかがだったでしょうか。２学期制のほとんどの学校は29日から１学期後半の授業が、３学期制の学校では９月１日から２学期が始まります。９月に行われる連合行事や校内体育大会、地域の行事などに向けての準備や練習が始まっている学校も多いのではないかと思います。１年のうちでも節目の一つであるこの９月は大変重要な時期ですので、子どもたちの様子をじっくり見ながら良いスタートが切れることを願っております。

本日、第69回福井県小学校長教育研究二州大会を、大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題、「豊かな心と確かな学力を身に付け、夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成」のもと、鉄道と港の町、ここ敦賀市においてこのように盛大に開催することができましたことは、敦賀市並びに美浜町のご支援とご協力のたまものと、191名の会員を代表しまして心よりお礼申し上げます。

また、本日は、公務ご多用の中、福井県教育委員会教育長　東村健治様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、新学習指導要領の移行措置が来年の４月から始まります。７月には「学習指導要領等に関する移行措置ならびに移行期間中における学習指導要領等について」の通知が文科省から出されましたが、各学校では新しく教科となる英語や道徳に向けての対応に頭を悩ませているのではないでしょうか。特に、福井県では5･6年生の英語教科化が先行実施されますが、増える35時間の時間をどう生み出すのかが課題となっています。理事会でも情報交換を行っていますが、週２時間をコマ取りで実施すること、学校ごとではなく、市町ごとに統一して実施することは、全県内共通しているようです。ただ、増えた１時間をどうするかについては、月曜日の６限目を設ける、業間の活動や掃除の時間をカットして７限目を設ける、クラブの時間を減らす、総合の時間15時間を使う・使わないなど、市町によっていろいろな案が出されています。

総合の時間の15時間については、移行措置期間限定の措置とされていますが、７月に行われました全国連合小学校長会の文部科学省講演での質疑でも、このまま継続してほしいという意見

も多く出されましたので、今後も全国連合小学校長会や県教育委員会とも連絡を取るとともに、理事会でも各市町の動向についてしっかりと情報交換を行いながら、児童や教職員の負担を少なくして実施する良い方法を決めることができればと思っております。

英語の時間をどう行うかについては、遅くとも12月までには決めなくてはなりません。また、総則、総合的な学習の時間、特別活動などは新学習指導要領での実施ですので、移行措置のカリキュラム・マネジメントをどうするのか、早急な対応が求められています。校長としてのリーダーシップをしっかりと発揮し、全教職員で共有することが必要であると思います。

昨日、全国学力・学習状況調査の結果が届きました。結果を詳細に分析し、学校としての良い点と課題を明確にして授業や学習状況の改善に役立てていかなければなりません。高学年だけでなく、学習の基礎となる低学年の段階から、また、学習のつまずきが顕著になり始める3年生など、全学年での授業にどう生かすかを全教職員で共通理解を図っていただきたいと思います。

本日は8つの分科会で会員一人一人が学校教育に関わる諸課題を念頭に置き、校長としてのリーダーシップや役割を追求するために研究課題に迫る協議を深めていただきます。県内の校長が一堂に会してこのような研修を継続して行うことは、校長としての力量を高めるためにとても大切なことであると考えます。本日提案をしてくださいます各校長先生方、本当にありがとうございます。また、3つの分科会の校長先生には10月の東陸の愛知大会でも引き続き発表していただくことになっておりますので、よろしくお願いします。

それぞれの分科会におきましては、校長としての経験と英知を結集し、課題の核心に迫り、学校経営に生かされる協議を展開しましょう。そして各研究課題の解明の中から、豊かな心と確かな学力を身につけ、夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成をさらに確実にしましょう。この二州大会が実り多いものになることを願っています。

結びになりますが、本研究大会に向けて、開催までの計画、準備や大会運営にご尽力くださいました二州地区の校長先生方および教育研究委員会の校長先生方、関係各位に心よりお礼を申し上げ、開催のあいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願いします。